

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (津東高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		地域における進学校としての教育・進学ニーズに真正面から応える学校。 自立・進取の気概を持ち切磋琢磨に努め、不断の進化を続ける学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	「向学立志」の校是を理解し、自らを磨くため、高い目標を持って学習や部活動に取り組み、真摯に自分自身の人生の進路を切り拓こうと励む生徒。
	ありたい 教職員像	基本的な生活習慣、確固とした基礎学力を土台に、生徒一人ひとりの価値観の確立・自己実現や、心豊かな人間性の創造を支援する教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> できれば国公立大学に進学したいと希望しており、それを実現できるよう、学力を付けられるわかりやすい授業を望んでいる。 <保護者> 子どもをできれば国公立大学に進学させたいと希望しており、それを実現するための授業力・進路指導力を期待している。 <地域・県民> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <保護者・PTA> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をして欲しい。 <地域> 地域の活性化に協力し、信頼できる学校となって欲しい。 <進学先(大学等)> 基礎学力と明確な目的意識、課題解決のための「思考力・判断力・表現力」を育んで欲しい。 <学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 高校卒業後の進路状況などの情報提供をして欲しい。(高校生対象の学習塾) 大学入試に向けた連携をして欲しい。	連携する相手への要望・期待 <保護者・PTA> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <地域> 学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <進学先(大学等)> 生徒の進路希望実現のための情報提供をして欲しい。 <学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 中学生保護者へ本校教育活動の情報提供をして欲しい。(高校生対象の学習塾) 大学入試関連の情報提供をして欲しい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		○生徒の主体性や自律性を育むとともに、学校としての特徴を打ち出し、生徒の学習意欲を維持、向上していくような機会を設ける必要がある。 ○生徒の進路希望を実現するよう、「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす指標」を新たに設定する必要がある。 ○授業力向上に向け、生徒の「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」といった要素を伸ばすような取組を工夫していく必要がある。	
(4) 現状と課題	教育活動	生徒の学校生活は落ち着いており、学習や部活動に熱心に取り組み、満足度も高い。ただ大人しい生徒が多く、自主性や積極性にやや欠け、高い目標設定をせず諦めてしまう場合がある。きめ細かな指導により自尊感情や学習に対する意欲が高まり、国公立大学への進学者も増えている。昨年度より校内会議や有志グループを立ち上げ、授業公開や教員同士での授業研究も進み、授業改善に対する機運も高まってきている。	

	学校運営等	職員室が分散しており、コミュニケーションが取りにくい状況になっていることから、職員間で業務分担の不公平感がある。生徒の学力向上に資する取組や改善策等に関しても、必ずしも組織全体で共通認識が図れている訳ではなく、個々の教員の力量に任せている傾向が大きい。このような課題に対し、昨年度より学年間で連携を図る会議等を立ち上げ、体制が整いつつある。
--	-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	○生徒の進路希望実現と「生涯学び続け得る学力」をつけるために、生徒の学習実態を定期的に調査するとともに教員の授業力向上に学校全体で取り組み、生徒への「しかけ」や校内の「しくみ」について検討する。 ○部活動と学習の両立のための時間の使い方、あるいはスマートフォン等の使用マナーなどの、基本的生活習慣の確立や人の気持ちの分かる心の育成、主体性・協調性の育成など、他者と支え合いながら、社会を創っていく社会人基礎力を育む。
学校運営等	○学年や分掌間で連携し、明るく相互に認め合い協力し合える組織文化を培うとともに、情報共有のしくみを作るなど、職員相互の対話と情報共有を促進し、学校全体の組織力を向上させる。 ○学校運営への保護者・地域住民の参画を呼びかける、またホームページによる学校教育活動の情報提供を充実させるなど、開かれた学校づくりに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路希望の実現	○生徒に様々な機会・方法で進路情報を提供し、視野を広げるとともに意識啓発を行い、将来に向けて高い目標の実現に向けて最後まで最大限努力する姿勢を育む。 センター試験出願者:90%以上 国公立大学出願者数:160名 ○個人面談を充実させ、進路希望や学習状況などを正確に把握し、的確かつ継続的な指導を行う。 ○補講、学習マラソン、特編授業などタイムリーかつ有効な企画で学習意欲の向上を図る。 ○教員の指導力向上に向け、進路と学年との間で進路懇談会を開催して連携を密にするとともに、入試研究会・教科研修会へ積極的に参加する。 ○進学向け情報誌や参考書など、関連図書を充実させる。 ○総合的学習の時間を組織的に見直	○3年生対象に、分野別進路・推薦・センター試験・国公立推薦・県立看護大学等、各種ガイダンス、進路講演会を実施。 センター試験出願者94%。国公立への出願は、現在出願中。 ○年2回の面談週間だけでなく、1年生の文理選択、2年生の科目選択の時期、あるいは3年生は常時、必要に応じて実施。担任だけでなく、学年主任も実施。 ○従来の補講に加え、難関大学希望者対象のプロジェクトを立ち上げ。1年生は英国数のバランスが取れるよう、3教科会で課題の量や提出時期を調整。2年生は意欲低下の時期に、タイムリーな課題を出すことで、自主参加する生徒が増加。3年生は、夏期補講:295名、学習マラソン 1学期末:64名、2学期末:87名、冬期演習:152名が参加。 ○進路懇談会は1学年と9回、2学年と8回、3学年と26回実施。進路検討会はセンター試験後も含め、4回実施。教員向け入試研究会・教科研修会への参加は、延べ101名。 ○赤本の追加購入や英語本のコーナー開設により、利用者が増加。 ○1年生は表現力指導Ⅰとして課題解決学習と	

	し、体系的なキャリア教育に取り組む。 ○奨学金制度の紹介や手続きを行い、経済的な面から生徒の進路希望の実現を支える。	その発表を、2年生は表現力指導Ⅱとして志望理由書の取組を新たに導入。 ○大学進学に向けた奨学金説明会を4回実施した他、随時情報を提供。	
学習環境の整備	○教育課程の問題点、単位制・習熟度別授業のあり方について再考し、見直しを図る。 ○授業アンケートを活用し、授業の改善や教科指導力の向上につなげる。 ○「学習記録ノート」を活用し、家庭学習の習慣を確立させる。(家庭学習の目標:平日 120 分、休日 180 分) ○平日の始業前、放課後および学校休業日に教室や図書館を開放するなど、生徒が主体的に自学自習できる環境を準備する。 ○よりよい学習環境として、掃除の徹底をする。 美化委員による清掃確認:年16回 大掃除(中掃除を含む):年9回 ゴミゼロ運動・夏季除草作業・クラブ一斉清掃:年3回	○生徒減に対する対応も含め、今後の学校全体のあり方を検討。 ○アンケート実施時期を変更し、1 学期のアンケート結果を 2 学期以降の授業に反映。 ○1年生は1 日平均 120 分を越える生徒は少ない。3年生1学期は1 日平均 180 分程度、2 学期後半に 240 分以上を達成。 ○図書館で模様替えを行った結果、より多くのスペースを創出。 ○美化委員による清掃確認:11回実施(今後5回実施予定)。大掃除5回実施(今後4回実施予定)。ゴミゼロ運動等3回実施。	
自主性・主体性の育成	○自主性や積極性を醸成するため、より能動的に学校行事や部活動に取り組めるようにするための具体的な仕掛けを繰り出していく。	○クラブとの「連携」「連動」による生徒会行事時の校歌独唱が定着。生徒会執行部による学園祭活動やポスター制作を通して、自治的に物事が決定していくプロセスを生徒に提示。	
安全・安心な学校づくり	○学校が「向上心を持つ仲間とともに、安心して勉強できる場所」となるよう、いじめや差別を許さず、一人ひとりの個性の違いを認め、互いに尊重することができる仲間づくりをする。 ○自らの健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることのできる生徒を育てる。 個別の保健指導(視力／口腔の健康など):年2回以上 ○心の面でバランスを崩した生徒へのケアのため、校内外様々な機関と連携し適切なケアを行う。 保健室利用状況の報告と学年との情報交換:年10回 教育相談係との連携:年20回	○1学年では、いじめ防止のために「自分にもできること」を現実的かつ具体的に考察。全学年で、社会的偏見にとらわれず多様性を尊重する生き方について学習。 ○保健指導(視力1回、口腔の健康3年生対象1回)を実施。手洗い指導も実施。 ○学年との情報交換:8回。教育相談係との連携:20 回以上。	

	○施設の老朽化に留意しながら適切な維持管理を行う。 ○実効性のある防災、危機管理教育や訓練を目指して、教育訓練を行う。	○予算確保に努めながら優先順位をつけて施設管理を実施。 ○安全性を考え、避難場所をグラウンドから玄関前の庭に変更して訓練を実施。	
社会人基礎力の育成	○基本的生活習慣を確立させ、提出期限や時間のルールを徹底し、責任感を持たせる。 ○新聞を読ませる機会、あるいは人権LHRなどを通して社会問題に関心を持ち、望ましい社会の実現に向けて活動しようとする意欲や態度を身に付けさせる。 ○どんな場面でも元気に挨拶ができる態度の育成のため、常に職員からの声掛けを心がける。状況に応じて、きちんとした言葉遣いで話すことができる力を育成する。	○約8割が宿題を期限内に提出。遅れ、再提出を含めると約9割が提出。貸出図書はこまめな督促で返却。 ○1年生表現力指導Ⅰでは社会問題に関する新聞記事4種類を提示。3年生「新聞を読もう」は21回実施。 ○職員室入室時のマナーをルール化し、入り口に掲示することで指導を徹底。	

改善課題

学習指導要領の改訂、高大接続に係る入試制度改革など、時代の変化を本校の教育活動にどう取り入れていくか、情報収集や研修会をさらに進めていく必要がある。個に働きかけると動く素直さがある反面、教員に依存する部分の多い生徒に対し、課題を習熟度に応じて自ら選択できるようにする、あるいは課題の量を調整し、自分の弱点に応じた学習に取り組める時間を確保するなど、主体的・自立的に学習に取り組める仕組みを工夫する必要がある。新たに取り入れた「地域課題」をテーマにした総合的学習の時間をさらに発展させ、将来の目標をさらに具体的なものにするなど、意欲のある生徒に自信を持たせ後押しできるよう、組織的、系統的なキャリア教育を進めていく必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校全体の組織力の向上	○風通しの良い職場づくりのため、日頃から生徒や各学年・分掌での取組に関する情報共有のシステムづくりを検討する。 ○教職員が相互に認め合い、協力し合える組織文化を醸成し、生徒の指導について教員一人が抱え込むことなく“チーム”として対応できるよう、体制を充実させる。 ○各種研修において意見交換する場を設けるなど、職員が協調して指導に臨めるような雰囲気づくりをする。	○職員室へのホワイトボード設置。朝の打ち合わせの内容精選。デスクネットの活用促進。 ○スクールカウンセラーによる教員支援を実施。個別の事案について、随時関係者によるケース会議を実施。 ○有志による授業力向上研究チームを組織化。	
開かれた学校づくり	○ホームページなどを通じて学校の取組を紹介し、多様な意見を聞くとともに、学校開放に積極的に関与する。	○ホームページの更新率は上昇。絆ネットは配信内容を拡充。授業公開は来場者が増加。	

	○PTA 活動や学校関係者評価委員会を通して、保護者や地域住民の学校運営への参画を進める。 ○様々な不安を抱える保護者のために、相談体制の充実を図る。	○PTA総会の出席者は減少。保護者のための大学見学会の参加者は増加。 ○スクールカウンセラーの利用について保護者にも案内し、利用数が増加。	
目指す姿の具現化	○生徒の進路希望実現と教員の授業力向上のため、学力向上推進会議を活性化する。 学力向上委員会の開催:年8回以上 ○Sクラスの特色化に向け、学校ビジョン委員会で検討を行う。 学校ビジョン委員会の開催:年6回以上 ○目指す姿の具現化とそれに向けた個々の教職員の取組に関して、校長と教職員が対話を行う。 校長と教職員との面談:一人平均年3回以上	○学力向上委員会:6回実施 ○学校ビジョン委員会:11回実施 ○校長と教職員との面談:一人平均年4回実施。	
働きやすい職場づくり	○過重労働時間の縮減に向け、会議日の工夫、会議時間の短縮、声かけ運動・対話促進等に取り組むとともに、学校安全衛生委員会で解決に向けた対応策を考える。 ○親切丁寧な窓口対応や電話対応を行うとともに、教職員と連絡・情報を密にして、仕事がやりやすい職場づくりに努める。	○過重労働時間は昨年度の 31.9 が本年度 31.4 とわずかに減少したものの、全県立学校平均 19.2 に比べると、依然として高いため、安全衛生委員会で対応策を検討中。 ○事務室での電話は2コール以内、来校者には親切丁寧に対応。	

改善課題

仕事をスムーズに進めていくため、空き時間を利用して少人数が集まって事前の打ち合わせをする等、多忙だからこそ綿密な情報交換をしていく必要がある。生徒の進路希望実現のために教科会を活性化する等、授業改善や指導力向上に組織的に取り組んでいく必要がある。今後の生徒減を見越してより良い学校づくりのため、学校ビジョン委員会や学力向上委員会などをさらに活性化し、組織を見直していく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○部活動との両立に悩んでいる生徒にどう対応していくか、議論していく必要がある。 ○「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす」ことの指標設定は難しいが、目標を校内で意思統一していくことが重要である。 ○全県立学校の平均に比べて過重労働時間が長くなっているため、削減に向けて具体的取組を考えていく必要がある。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○課題の量や質を教科横断的に調整し、個々の学力に応じて必要な負荷を掛ける一方で、学習内容や量を自ら選択できるように習熟度別課題を用意するなど、生徒が主体的・自主的に学習に取り組める仕組みを工夫する。
--------------	--

	○学習指導要領改訂や入試制度改革などの変化を、本校の教育活動に取り入れるため、情報収集や研修会を進めていく。 ○新たに取り入れた「地域課題」をテーマにした総合的な学習の時間をさらに発展させ、自分がどのような形で社会貢献できるか考えることで、将来の目標を具体的なものにするなど、意欲のある生徒に自信を持たせ後押しできるよう、組織的、系統的なキャリア教育を進めていく。
学校運営についての改善策	○生徒の進路希望実現のため、教科指導や進路指導等の時間は削減できないので、それ以外の業務で時間短縮できるよう、学校運営のさらなる効率化を図る。 ○「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす」という目指す姿の具現化のため、校内の縦横の連携を強化し、職員の意思統一を図る。